

講演5: 超人のレシピ

東京大学 稲見昌彦先生

青字が先生からの回答です

Q1: テクノロジーの力も借りて、“健康” 寿命が伸びればいいなと思います。

例えば近眼を「不健康」とは言わないように、現在の様々な不健康も眼鏡やコンタクトレンズを利用するかのように日常生活を大きな不便を感じることなく過ごすことができるようになれば、結果として、「健康」な方が増えるということになるかもしれません。

Q2: ヒトの筋肉や神経の電気パルスをロボット可動の信号として利用しているのですか？

昔、ニューロコンピュータというサイバーコンセプトがありました。またペンフィールドの実験などもありますが、そう考えるとずっと研究が進んでいても良い気がします。やはり倫理がネックになっていますか？(ゲノム編集のように)

筋電センサを用いたインタフェースも色々研究しておりますが、針を刺すなど侵襲的なことを行わないのであれば、比較的多くの方に受け入れやすい実装だと考えます。健康な人に積極的に侵襲的なインタフェースを装着することについては倫理に関する議論は十分な必要があると考えます。